ISSN 0386-8931

史窗

二〇〇二年二月五日　印刷
二〇〇二年二月十日　発行

第　59　号

目　次

論　文

「ローマの平和」とキリスト教 ……新　田　一　郎（ 1 ）
——2世紀における帝国と教会——

キャロライン王妃と貴族院の「裁判」……古　賀　秀　男（ 15 ）

アメリカ禁酒法の施行状況 ……常　松　　洋（ 35 ）
——ウィカシャム報告書にみる同時代の評価——

史料紹介

叡山松禅院文書 ……稲　本　紀　昭（ 61 ）

藤縄謙三教授追悼録

藤縄謙三教授　略年譜・著作目録 ……（105）

藤縄謙三教授追悼文集 ……（107）

載　録

永田英正教授　略年譜・著作目録 ……（129）

彙　報 ……（139）

2002・2

京都女子大学史学会

表紙の題字は故那波利貞先生の筆。『史窓』
が活版印刷になり第５・６合併号を発行した
とき（昭和29年）御書きいただいたものです。

彙　報

二〇〇一年度　学会行事

新入生歓迎会

四月七日（土）

本年度は日程の都合上、例年なら別日程で行っているオリエンテーションと歓迎バスツアーを一日でこなすための時間制限もあり、学会委員側が大変あわただしく動かねばなりませんでした。しかし四回生の先輩方や、皆様の協力を得て、まずは午前のオリエンテーションをこなし、午後のバスツアーへと進ませることが出来ました。

新入生オリエンテーション

我々史学会の役員と新入生が初めて顔を合わせるオリエンテーション。また新入生はこのオリエンテーションやバスツアーを通じて、史学科での新しい学生生活を見出していくことができるでしょう。

新入生歓迎バスツアー　in 石山寺

オリエンテーションに続き、先生方を交えて昼食をとりながら、柴田先生にバスツアーの行先・石山寺についての解説と見所のお話をしていただきました。

昨年度に引き続き、J館前に停車したバス三台に、確認を取りながら名簿順に新入生を乗せていよいよ石山寺に向けて出発です。バスの中では三台それぞれに、恒例の自己紹介タイムが設けられました。最初は緊張気味だった自己紹介も、お互いの出身地や興味（史学科ゆえに興味のある時代や地域の話題が続出）を知るにつれ、すっかり打ち解けた雰囲気になった頃、石山寺に到着。

石山寺では見頃の桜が満開で、とても綺麗でした。紫式部ゆかりの寺ということで、ちょうど催されていた『紫式部展』に足を運んだ人も多かったようです。その後は広い石山寺を思い思いに散策し、美しい景観を満喫しました。

予定どおり、五時過ぎには学校へ戻ってくることが出来ました。

ハードなスケジュールの中、新入生の皆さん、先生方、そしてお世話になっている平安観光の田村さん、お疲れ様でした。

春季公開講座

五月二五日（金）

天平の皇帝―聖武天皇の実像と虚像―
　本学教授　瀧浪　貞子氏

朝鮮燕行使―その中国旅行と東アジア世界―
　京都大学大学院文学研究科教授　夫馬　進氏

卒業論文中間発表

日本史専攻　一〇月一七日（水）～一九日（金）
東洋史専攻　一〇月一五日（月）・一七日（水）
西洋史専攻　一〇月一五日（月）・一六日（火）

秋季公開講座

一一月一五日（木）

「ローマの平和」とキリスト教―キリスト教拡大原因考―
　本学教授　新田　一郎氏

王権と神泉苑
　京都橘女子大学教授　細川　涼一氏

専攻分け説明会

一一月二八日（水）　昼休み

一回生と先生方の交流をはかりつつ、二回生になるにあたっての、専攻分けのための説明会が行われました。各専攻の先生方による説明をしていただいた後、質問会となりましたが、専攻を決めていた人が多かったのか、質問はほとんど出ませんでした。

四回生予餞会

一二月二〇日（木）

四回生が卒業論文を提出した後、午後六時から祇園の「かがり火」にて予餞会が行われました。卒業論文を仕上げて提出を終えた先輩方の晴れやかな笑顔と、先生方との和やかで楽しい雰囲気の中、予餞会は終了しました。

早春の学会旅行

三月二二日（金）・二三日（土）

能登・金沢、和倉温泉への旅行を企画しています。

（欅田志穂・小谷美記子・高山乃美）

二〇〇一年度　史学科講義題目

史学科共通

講義	
史学研究入門A	常松教授
史学研究入門B	柴田教授・谷口助教授
日本史概論A	瀧浪教授
日本史概論B	坂口助教授
東洋史概論A	植松教授
東洋史概論B	檀上教授
西洋史概論A	新田教授
西洋史概論B	常松教授
考古学A・B	家根・堀内・梶川講師
民俗学A・B	根井講師
日本美術史A・B	河上講師
東洋美術史	竹浪講師
西洋美術史	愛宕講師
歴史地理学A・B	中村教授
人文地理学A・B	中村教授
地誌学	
講読	
漢文A・B	古松講師
演習	
史学基礎演習A	常松・中山・瀧浪・柴田教授・谷口助教授
史学基礎演習B	永田・檀上・古賀・稲本教授・坂口助教授

日本史専攻

特講
古代社会と都城制　瀧浪教授
古代の王権　瀧浪教授
宮廷と貴族　瀧浪教授
日本史特殊2・2A・2B　稲本教授
近世・近代の地域社会の諸問題　中山教授
移民社会とネットワーク　坂口助教授
近世の「知」　柴田教授
日本文化論　山路講師

講読
日本史講読ⅠA・B　中山教授・坂口助教授
日本史講読Ⅱ　瀧浪教授・稲本教授
日本古文書　稲本教授・中山教授

演習
日本史演習Ⅰ　瀧浪・稲本・中山・柴田教授・坂口助教授
日本史演習Ⅱ　瀧浪・稲本・中山・柴田教授・坂口助教授

東洋史専攻

特講
元明時代東南沿海社会の諸問題　檀上教授
元末明初東南沿海社会の諸問題　檀上教授
明末東南沿海社会の諸問題　檀上教授
朝鮮古代史を考える　田中講師
古代東北アジア史を考える　田中講師
イスラーム時代西アジア史　谷口助教授
イスラーム時代西アジア史総論　谷口助教授
イスラーム時代西アジア史各論　谷口助教授
中国史史料学　木田講師
中国古代官僚制度の研究　永田教授
東アジアの法と習慣　冨谷講師

講読
東洋史講読ⅠA・B　岡本講師・角谷講師
東洋史講読Ⅱ　冨谷講師・田中講師
東洋史講読Ⅲ　永田教授・檀上教授

演習
東洋史演習Ⅰ　永田・植松・檀上教授・谷口助教授
東洋史演習Ⅱ　永田・植松・檀上教授・谷口助教授

西洋史専攻

特講
イギリス近代の政治と社会　古賀教授
イギリス近代の政治と社会Ⅰ　古賀教授
イギリス近代の政治と社会Ⅱ　古賀教授
「ローマの平和」の持つ歴史的意義　新田教授
中世末期フランスの貴族階級　江川講師
近世フランスの国際都市と外国人ネットワーク　阿河講師
ドイツ教育社会史の研究　望田講師
バルカン・ユーラシアの東西文化交流　中村教授

講読
西洋史講読ⅠA・B　常松教授
西洋史講読Ⅱ　青木講師
西洋史講読Ⅲ　中村講師

演習
西洋史演習Ⅰ　新田・古賀・常松教授
西洋史演習Ⅱ　新田・古賀・常松教授

二〇〇一年度　卒業論文題目

日本史専攻

阿井　靖恵　北条政子という女性
浅野　友紀　出島―鎖国下における出島の存在と機能について―
綾　万貴子　幕臣・榎本武揚の箱館戦争
荒井　葉子　勧進による東大寺再建の意義
生田亜由美　継体天皇の出自と豪族たち
石川　亜未　江戸美人画の享受層―春信・清長・歌麿―
石塚　香織　平安貴族の生活における菓子
伊藤　智子　雛祭―江戸時代を中心に―
今西　裕美　伏見人形の名産化
太田　晶子　新発田藩内の神社―神社と人々の関わり―
大平　香奈　河鍋暁斎―雅号を中心に―
岡野　美里　二・二六事件―青年将校の挫折―
岡村　綾乃　満映と李香蘭
奥田　梨紗　鎌倉幕府と関東水軍―三浦一族の歴史をたどる―
柏木　郁子　関西「私鉄王国」の発達
川崎　理恵　地域社会における頒暦の意義―山口県豊浦町の場合―
川西亜由美　分国法　長宗我部氏掟書
川端　紀子　平重盛　虚像と実像
北野　薫　中臣氏の一考察
北村　麻衣　俗信憑物・狐憑き
木下　恭子　近代物流における中央卸売市場の成立
木本　久子　平安京における陵墓地の選定について
黒子　佳恵　アイヌの神信仰と衣裳文様
坂本　直子　土馬―兵庫県を例に―
坂本　恵美　江戸時代における砂糖の普及
佐竹　舞　『新論』における天
品村　香　倭寇―朝鮮半島をおそう倭寇―
末浪　聡子　フランク・ロイド・ライト
鈴鹿　芽　江戸の消防制度
高岡　那美　東京裁判と広田弘毅
高木　香織　長崎出島のオランダ人
高木　杏子　江戸時代日本人の世界像について
高橋　清子　禁色考　位色の変遷との関わり
巽　由味　江戸期の広告　戯作者と坂本氏の活躍
田中　紀子　戦後沖縄の音楽文化とその変容―流行歌の推移を中心に―
殿村　全代　「剃刀」政治家と初期議会―陸奥宗光
戸松由美子　小論
中土満智子　会津藩士の昌平坂学問所遊学について
中村　聡子　七世紀の日朝関係―前・中期を中心に―
　　法廷という戦場で―大川周明と東京裁

中安　慶子　尾道商家橋本家の経営と広島藩札
永盛　恵　平安時代初期の親王について
西川亜希子　大正洋装
西谷　梨沙　ラジオ番組と情報統制
二宮　朱美　中世瀬戸内海における村上水軍の役割
沼田安寿美　北条氏の源流―伊豆北条氏について―
日笠真佐子　近世花火の基礎的研究
広瀬　佳枝　動物と人との関わり合い
藤田佳名子　摂関期の女性と出家
藤原亜紀子　中世斎王について―玉葉よりたどる―
松田　亜美　修羅と能
宮本　紘子　変化朝顔にみられる江戸文化の特質
森本江里子　日本女性の洋装化―下着から考える―
藪内真紀子　紅燈の灯は消えたのか―国家による戦後の売春体制―
山下　夏紀　雅楽寮について
山本満理子　藪内家の茶―剣仲と竹心―
吉田　睦　道長をとりまく女性たち
伊藤　綾野　大正期から昭和初期における職業婦人について
藤田　麻里　年中行事障子とその後の儀礼について

東洋史専攻

井手　文　白仁甫と金末元初の知識人
内山けい子　郵便と駅伝制―站赤と急逓鋪―
梅崎　加恵　故宮文物の南遷と台湾移送―中華文化継承の意義―
大村梨恵子　インド婚姻法の変化―イギリス支配がもたらしたもの―
岡本圭威子　後漢王朝と献帝―その真実の姿―
奥村　悠子　第一次世界大戦期におけるイギリス－フセイン交渉―パレスチナ問題を中心に―
呂不韋と『呂氏春秋』
幕末日本と琉球―海外情報の受容とその影響―
晩清政権の対外政策と総理各国事務衙門
北山　公子　韓非の思想と官僚制
喜家村愛子　擾乱の新疆―その支配者たち―
久世さつき　漢の武帝の人材登用について―衛青・霍去病二人の将軍―
百済　美枝　古代日本政権下の百済王氏
栗生由美子　辛亥革命期の孫文に見られる戦略としての日本観―「満州」租借問題を中心に―
黒川麻梨子　宮崎滔天と中国革命―その思想と限界―
黒木　雅奈　ベトナム戦争における写真報道―何を報道というのか―
香西　聖子　秦始皇帝の人物像―その業績を中心として―
小橋　裕子　紅衛兵運動の思想的根源―家庭および学校での教育を中心に―
迫田　慶子　梁啓超と清末の女性解放運動
小路　淳子　則天武后の政治にみる功罪の一考察
鈴木　直子　宋初、茶法の変遷と商人の台頭
関谷　尚子　イギリス東インド会社と地方貿易商人―中国近代化過程におけるその影響と役割―
田中久美子　新文化運動期の陳独秀の思想
角川奈緒美　中国古代における天思想の変化
内藤　涼子　道光期におけるアヘン貿易論争―弛禁論と厳禁論を中心に―
中村　舞　唐代長安城における東市と西市
仁科　依子　クメール・ルージュによるカンボジア支配とその過程
野田　晶子　『大義覚迷録』における清朝の正統性
日野詩帆織　インド・パキスタン分離独立史におけるガンディー・ジンナー会談の意義
兵頭　聡子　南京防衛軍の崩壊とその要因
平谷有希子　後漢中期における清流派官僚の進出
福原かおり　袁世凱の帝政選択の原因をめぐって
松本　恭子　訓民正音創制の意義
水本　有希　朝鮮分断国家の成立について
巳波こずえ　前漢代の対匈奴関係における一考察
宮川　知子　顔真卿の生き方について
村上　あい　奉天時代の張学良軍閥政権―その形成と崩壊への軌跡―
村上　栄美　アショーカ王時代の官吏―チャンドラグプタ時代との比較―
森尾　佳世　太平公主の政治的失脚の原因
矢野　伴恵　明代嘉靖期における福建と密貿易
山崎　祐恵　南朝鮮独立過程における反託運動の性質
横澤まり子　中国冬至節の行事と風習の変化について
横田　順子　シュメール都市ラガシュにおけるエンシ権の変化―ウル第三王朝の中核地域支配に関する一考察―
六井　浩子　中国古代服色考

西洋史専攻

荒尾　仁子　エスペラント博士ザメンホフ
板倉　愛　イギリス中世都市の変容について
岩井さやか　ローマ平和期の見世物―剣闘士闘技を中心として―
大平　嘉奈　シエイエスのフランス革命戦略
木本　真世　ヒッタイトに関する一考察
後藤みどり　産業革命期における炭鉱労働者の状態について―北東イングランドを中心に―
是澤　綾　スパルタの国制―プラトンの理想国家論との関わり―
鷺　みずほ　ビザンツ帝国が見た十字軍―アレクシオス一世の時代を中心に―
瀬口奈津紀　映画合衆国
高田　春奈　ルイ十五世期における寵姫の意義と変遷
武津　麻弥　ポリス社会における女性の地位―アテナイ市の場合を中心に―
谷本　美鈴　第三帝国の若者たち
谷本　裕子　イギリス茶貿易の発展

近久　麻衣　ウィリアム征服王のイングランド征服・統治成功の背景―ノルマンディ公国の性格との関わりにおいて―
刀谷　文子　ルイ十六世の裁判と処刑の意味
徳山　真由　中世後期ケルンの商工業における女性たち
中原　悠子　ヴィクトリア朝の中産階級女性
那須　千秋　戦後ドイツの極右政党の変遷
新田　恵　ヘンリー八世治世の宗教改革について
中川　直子　ウォルト・ディズニー帝国―ディズニーの創造作品―
橋本　麻衣　イギリスの二枚舌、その罪
馬場千恵子　フランク民族のカトリック受容
平松　美和　オスマントルコ帝国と中東ヨーロッパ世界―国家の世俗化・近代化の問題をめぐって―
松原美由紀　モンテスキューの関わった知識集団―ボルドー・アカデミーとフリーメーソン―
水間　敬子　ナイル川と神々―王朝時代の幕開け―
宮本　雪絵　エトルリア研究序説―国家の特徴と限界―
宮脇　悠　マーガレット・サッチャーの政治について
矢島　道子　イスラエル宗教史研究―その神概念の形成をめぐって―
山川　涼子　中世の写本挿絵に見る挿絵と枠の変遷

二〇〇一年度　大学院文学研究科

史学専攻博士前期（修士）課程講義題目

特論

古代都市論　瀧浪教授
戦国大名の研究　稲本教授
近世大地主制の成立と展開（Ⅲ）　中山教授
※日本における移民史研究の成果と課題　坂口助教授
対外観の変遷・推移の追跡　杉井講師
※近世の「知」　柴田教授
※京都の文化を中心に考える　山路講師
日本古文書学特論　下坂講師
出土文字資料による中国古代・中世史の諸問題　永田教授
中国社会と「士」階層　檀上教授
中国社会史特論　植松教授
※東アジアの法と習慣　冨谷講師
※中国史史料学　木田講師
※イスラーム時代の西アジア　谷口助教授
※バルカン・ユーラシアの東西文化交流　中村教授
ローマ帝国とキリスト教　新田教授
※中世末期フランスの貴族階級　江川講師
イギリス産業革命と世界システム論　古賀教授
アメリカ大衆社会論　常松教授
※近世フランスの国際都市と外国人ネットワーク　阿河講師
※ドイツ近現代における教育と社会　望田講師
（※は学部共通）

演習

日本史演習Ⅰ　瀧浪教授
日本史演習Ⅱ　稲本教授
日本史演習Ⅲ　中山教授
日本史演習Ⅳ　柴田教授
日本史演習Ⅴ　坂口助教授
東洋史演習Ⅰ　永田教授
東洋史演習Ⅱ　植松教授
東洋史演習Ⅲ　檀上教授
東洋史演習Ⅳ　谷口助教授
西洋史演習Ⅰ　新田教授
西洋史演習Ⅱ　古賀教授
西洋史演習Ⅲ　常松教授

史学専攻博士後期課程講義題目

特殊研究

女帝論　瀧浪教授
日本史特殊研究Ⅱ　稲本教授
米作単作地帯における大地主制の確立　中山教授
構造　坂口助教授
日本史特殊研究Ⅳ　柴田教授
近世の社会と思想　永田教授
東洋史特殊研究Ⅰ　植松教授
元代史の研究　檀上教授
明清時代の国家と社会　谷口助教授
イスラーム史料論　新田教授
ローマ帝国の州分寺　古賀教授
イギリス近代史の諸問題　常松教授
アメリカにおける大衆社会の成立―その前史

二〇〇一年度　大学院修士論文題目

佐竹　朋子　幕末公家社会における政治意識の形成―修陵事業の展開を通じて―
藤江美由紀　堀平左衛門の殉死
水谷　友紀　奈良町の存在形態についての一考察―享保期以降にみえる町代の動向をめぐって―
南　晃子　阿蘭陀通詞の基礎的研究
武藤佳央理　近代日本の朝鮮政策―天津条約の締結とその史的意義―
山中　裕子　陸軍と統帥権問題―一九二〇年代前半を中心に―
（以上日本史）
津川　智美　方士の変遷とその特質
馬場理恵子　劉歆の思想と展開―讖緯の形成と経学―
村松　賢子　北斉佛教の特質
（以上東洋史）

二〇〇一年度　大学院行事

研究発表会・その他

四月二〇日　大学院歓送迎会（「萬三」にて）
五月一八日　第一回研究発表会
北斉仏教の興隆について　M2　村松　賢子

明治初期における旧幕臣の動向
M2　加藤　悦子
明末の日本観と海防策―寧波争貢事件から海禁解除に至るまで―
M1　木岡さやか
『四庫全書』編纂にみる清朝の世界観
M1　田中　絢子
戦後処理論
M1　辻川野乃子
政党政治の崩壊に伴う元老機能の低下について
M1　西岡山奈仁子
室町時代後期の京極氏について―応仁・文明の乱前後を中心とした江北における立場の変化―
M1　野本　景子
フランス革命の変遷について
M1　長谷川真希
一八四六年穀物法廃止と地主・貴族層
M1　松木　志保
桂宮淑子内親王について―宮家を相続した内親王―
M1　宮内　睦美
元代の茶法について
M1　宮崎　美幸

六月　一日

第二回研究発表会
幕末の修陵事業
M2　佐竹　朋子
方士の変遷とその特徴―秦漢期を中心として
M2　津川　智美
王莽革命における劉歆の思想的影響
M2　馬場理恵子
近世の殉死について―肥後細川家を中心に―
M2　藤江美由紀
近代奈良町の存在形態―現段階における問題の所在―
M2　水谷　友紀
阿蘭陀通詞と文化二年長崎日露会談について
M2　南　晃子
近代日本の朝鮮政策―明治前期を中心に―
M2　武藤佳央理

七月一〇・一一日　修士論文準備報告会
幕末の修陵事業
M2　佐竹　朋子
近世の殉死について―肥後細川家を中心に―
M2　藤江美由紀
近世奈良町の存在形態―町代の動向を中心に―
M2　水谷　友紀
阿蘭陀通詞と文化二年日露会談について
M2　南　晃子
近代日本の朝鮮政策―明治前期を中心として―
M2　武藤佳央理
統帥大権をめぐる基礎的研究
M2　山中　裕子
方士の変遷とその特質―秦漢期を中心として―
M2　津川　智美
王莽革命における劉歆の思想的影響
M2　馬場理恵子
北斉時代における仏教信仰
M2　村松　賢子

一二月　七日

第三回研究発表会
中近世移行期における近江湖岸領域についての一考察―近世菅浦村研究への課題と展望―
D3　岸　妙子
幕末期高松藩の砂糖生産の特質
D2　宇佐美尚穂
柴四朗の「国粋保存主義」―『大阪毎日新聞』主筆就任から退社まで―
D3　高井多佳子

一月一一日

第四回研究発表会
北魏末期の爾朱栄
研修者　小島　典子
統帥大権をめぐる基礎的研究
M2　山中　裕子
近世奈良町における町代についての一考察
M2　水谷　友紀
阿蘭陀通詞について―文化二年日露交渉を中心として―
M2　南　晃子
近代日本の朝鮮政策―明治前期を中心として―
M2　武藤佳央理
統帥大権をめぐる基礎的研究
M2　山中　裕子
方士の変遷とその特質
M2　津川　智美
劉歆の思想とその展開―讖緯の形成と経学―
M2　馬場理恵子
中国仏教の発展段階における北斉仏教の特性
M2　村松　賢子

修士論文中間発表会

一一月七・八日

幕末の修陵事業
M2　佐竹　朋子
近世の殉死について
M2　藤江美由紀

研究室だより

新世紀の幕開けとなる本年度四月、新しく新田一郎教授がご着任されました。新田教授のご専門は古代ローマ史で、西洋史特殊や演習Ⅰ・Ⅱを担当されています。先生をお迎えして、史学科のスタッフは総勢一四人になりました。ただ、数年前から体調をくずしておられた永田教授が、この三月一杯で退職されることになりました。定年にはまだ間がありましたが、教壇に立つのは無理と判断されてのご決断のようです。教員・事務員・学生を問わず、史学科一同、大変残念で名残り惜しいのですが、先生のご意志ですので、感謝の念とともにお送りしたいと思います。ご健康に留意され、今後のご活躍を心からお祈りいたします。

今年度も多くの先生方に非常勤講師として授業を担当していただいています。例年通り非常勤の先生方との懇親会を、五月一八日に「洛匠」にておこないました。

本年度四月から、西川美由紀さんが、史学科担当の事務員として学生共同研究室につめられ、教員の面倒や学生の相談にと忙しくたち働いていただいて

います。

今年度の新入生は一四六名で、卒業予定者は一三三名です。年度始めの段階で、学部在籍者数は、休学者を含め五三九名になっています。

大学院は、前期課程が九名の新入生を迎えて計二〇名に、後期課程が前年度と同じく計三名です。前後期あわせて休学者を含め二三名の大学院生がそれぞれの研究テーマに取り組んでいます。

本年度の史学科教員による研究成果の出版は次のとおりです。まず古賀教授が、ドロシー・トムプスン著『階級・ジェンダー・ネイション』（共訳、ミネルヴァ書房）を翻訳されました。そして、中山教授が『巨大地主経営の史的構造』（岩田書院）を、坂口助教授が『日本人アメリカ移民史』（不二出版）を、柴田教授が『北野天満宮史料　遷宮記録二』（共著、北野天満宮）を上梓されました。

今年度の学会旅行は、三月二二日・二三日の両日に、和倉温泉・輪島方面に出かけることになっています。

学会委員

二〇〇一年度の学会運営に協力して下さった学会委員は次の方々でした。例年通り史学会諸行事の企画から運営まで、全般にわたって支えていただきました。ここに氏名を記して感謝の意を表します。

委員長　日本史三回生　欅田　志穂
副委員長　西洋史三回生　小谷美記子
会　計　西洋史三回生　高橋美すゞ
書　記　西洋史三回生　高山　乃美
日本史二回生　加藤麻百合
日本史二回生　田中　祐子
一回生　飯村　恵美
一回生　山内　彩子

編集後記

『史窓』第五九号をお届けします。西洋史の論文三本と日本史の史料紹介一本に加えて、一昨年に亡くなられた藤縄教授の追悼録と、今年度末をもって退職される永田教授の略年譜・著作目録を掲載しました。藤縄教授追悼録を編むに当たっては、二一名の現旧教員・卒業生の皆様から追悼文をお寄せいただきました。専攻分野の近い新田教授には、特にお願いして長めの文章を執筆していただき、それを追悼文集の最初に掲載いたしました。皆様のご協力に対して心よりお礼申し上げます。

諸般の事情により前号から発行日が早まったため、修士論文の題目確認を論文提出後におこなうことが不可能となりました。そのため、一月下旬時点で提出予定者から申し出があった題目を掲載しております。

（谷口）

執筆者紹介

新田　一郎　本学教授
古賀　秀男　本学教授
常松　洋　本学教授
稲本　紀昭　本学教授
（追悼録の執筆者については各篇文末に記載）

史窓　第59号

二〇〇二年二月五日　印刷
二〇〇二年二月十日　発行

編集　京都女子大学史学会
印刷所　株式会社図書印刷同朋舎
発行所　京都女子大学史学研究室
京都市東山区今熊野
北日吉町三五
電話（〇七五）五三一―九一一一

KYOTO WOMEN'S UNIVERSITY

Journal of Historical Studies

SHISŌ

Vol. 59 February 2002

Contents

Articles

NITTA Ichiro, "Pax Romana" and Christianity: Empire and Church in the 2nd Century ……(1)

KOGA Hideo, The Trial of Queen Caroline in the Lords ……(15)

TSUNEMATSU Hiroshi, National Prohibition Act of America and Its Enforcement: A Study on Wickersham Commission Reports ……(35)

Historical Document

INAMOTO Noriaki, *Eizan Shozen'in Monjo* 叡山松禅院文書 ……(61)

In Memoriam FUJINAWA Kenzo

Biographical Note and List of Works ……(105)

Memorial Writings ……(107)

Biographical Note and List of Works

NAGATA Hidemasa ……(129)

Miscellanious ……(139)

THE ASSOCIATION OF HISTORICAL STUDIES

Kyoto Women's University, Kyoto, Japan

ISSN 0386-8931